

## 主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

### メッセージ 15

神の御子の福音において、わたしたちの霊の中で神に仕えることによって、  
神の福音の労苦する祭司となる

聖書：ローマ1:1, 9, 15:16, 16:25, 出19:6, I ペテロ2:5, 9, 啓1:6, 5:10

- I. 神のエコノミーにしたがった彼の当初の意図は、彼のすべての信者たちが祭司となることです（出19:6, 啓1:6, 5:10）。祭司職に関する書である聖書は啓示していますが、神は彼に仕える祭司の体系、祭司の団体を持つことができるようにという目的をもって人を創造されました（I ペテロ2:5, 9, 参照、啓2:6, 出32:1-6, 25-29）：
- A. 神は人を彼のかたちに創造されました。それは、人が彼の姿を帯びて、彼を表現するためです。
  - B. 神は彼が統治するために、人に彼の権威を与えました。それは、人が彼の代行であることを示しています——創1:26, I コリント10:31, ローマ5:17, 21, イザヤ43:7。
  - C. 神は霊のある人を創造されました。そして、この霊は創世記第2章7節において「命の息」（参照、箴20:27）と呼ばれています。神が創造されたわたしたちの人の霊は、神と接触し、神を受け入れるための器官です（ヨハネ4:24）。
  - D. 神は人を命の木の前に置きました。これが示していることは、人が神を命の木として受け入れて、神を生きるようになることを、神が願っていたということです——創2:9, ヨハネ6:57, 啓2:7。
  - E. わたしたちは祭司として、神に非常に近い人たちでなければなりません（出33:11, 14, II コリント2:10）。わたしたちは神と一であり、神のみこころ（神の心）を知り、神の託宣を受けて神のために語る人たちでなければなりません。それから、わたしたちは、神を人にもたらし、神を人の中へと分け与え、人を神へ連れ戻し、人を神と一にする人たちでなければなりません（マラキ2:7, 啓1:20, I ペテロ4:10-11, II コリント5:18-20, ヘブル10:22, 4:16, 参照、出27:20-21, 28:2）。
- II. バプテスマのヨハネは、旧約の祭司職全体を否定しました。しかし彼の働きは、新約における祭司職の開始でした（マルコ1:1-4）。彼はイエス・キリストの福音として、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマ

を宣べ伝えました。彼の務めは、「神の子、イエス・キリストの福音の始め」でした(1節)：

- A. ヨハネは宮の中で彼の父、ザカリヤと一緒に奉仕することをしないで、荒野にとどまり、粗野な衣服を着て、野性的な食事をし、野蛮な働きをしました。彼が生活をした場所、彼が着た物、彼が食べた物、彼が働いた方法は、旧約の祭司職を終わらせました。彼の働きは、新約における祭司職の開始でした——マルコ1:1-8。
- B. 神の福音の最初の新約の祭司は、バプテスマのヨハネでした。彼はいけにえとして雄牛ややぎをささげませんでした(ヘブル10:1-4)。むしろ彼は、自分の宣べ伝えを通して救われた罪人たちをいけにえとしてささげました。バプテスマのヨハネは、人々にキリストをもたらしました。このキリストは、ヨハネよりもさらに強力な方であり、また悔い改めた人々を聖霊の中でバプテスマして命を分け与える方です(マルコ1:4-8)。
- C. 旧約において、人の墮落の後、人によって神にささげられた動物のささげもののすべては、来たるべきキリストの予表でした。これは、来たるべきキリストがわたしたちの贖い主であることを指摘しています。新約において、救われた罪人たちは、キリストの中で、キリストと共に、キリストと一になって神にささげられる霊的なささげものであり、キリストの肢体、すなわちキリストの拡大と増し加わりとなります——ローマ15:16. 1ペテロ2:5, 9。
- D. 主イエスは新しい時代を生き、古い時代を終わらせました。新約の時代、恵みの時代、すなわち、イエス・キリストの福音の時代は、バプテスマのヨハネの宣べ伝えから始まりました——マルコ1:1-8. マタイ11:13. ルカ16:16. 使徒10:37。

### Ⅲ. 「キリスト・イエスの奴隷、召された使徒、神の福音へと選び分けられたパウロ」——ローマ1:1：

- A. 神の福音は、契約(遺言)としての良きおとずれです(ヘブル9:16-17. ルカ22:20. イザヤ42:6. 49:8)。マタイによる福音書から啓示録までの新約の二十七巻は、神からわたしたちに来る「幸いな告知」です。神の福音は、神の新約エコノミー全体であり、福音としてのキリストの計り知れない豊富を伴っています(I テモテ1:3-4. I ヨハネ1:14, 16. I コリント15:45後半. エペソ3:8)。
- B. パウロは神の福音へと選び分けられましたが、この神の福音はローマ人への手紙の主題です。ローマ人への手紙は、第五の福音書と考えるてもよいでしょう——1:1. 2:16. 16:25：

1. 最初の四つの福音書は、肉体と成ったキリスト、肉体の中におられるキリストが、彼の弟子たちの間で生活したことに關するものです。ローマ人への手紙における福音は、復活したキリストがその靈として、彼の弟子たちの中で生活したことに關するものです——8:2, 6, 9-11, 16。
2. わたしたちは、第五の福音書、すなわち、ローマ人への手紙が、わたしたちの中の主観的な救い主を、キリストの主観的な福音として啓示することを必要とします。ローマ人への手紙の中心的なメッセージとは、神が願っておられるのは、肉の中にある罪人たちを、靈の中にある神の子たちへと造り変えて、キリストのからだを構成し、諸地方召会として表現することである、ということです——29節. 12:1-5. 16:1-7。
3. わたしたちはみな、ローマ人への手紙の啓示にしたがって、神の福音の祭司として機能する必要があります。わたしたちは、福音の要素と詳細を学ぶ必要があります。わたしたちは、福音の完全な内容を経験する必要があります。わたしたちは、わたしたちの靈を活用して、どのようにして福音を供給するかを学ぶ必要があります——15:16。

IV. 「それは、わたしが異邦人へのキリスト・イエスの奉仕者となり、神の福音の労苦する〔活気づける〕祭司となるためであって、ささげ物である異邦人が聖靈の中で聖別されて、受け入れられるためです」——ローマ15:16:

- A. パウロが神の福音の労苦する祭司となってキリストを異邦人に供給したことは、神に対する祭司の奉仕でした。そして彼が福音の宣べ伝えを通して得た異邦人は、神にささげられたささげ物でした——I ペテロ2:5:
  1. この祭司の奉仕によって、不潔で汚れていた多くの異邦人は、聖靈の中で聖別されて、神に受け入れられるささげ物となりました——ローマ15:16. 16:4-5。
  2. これらの異邦人は、世俗的なものから分離され、神の性質と要素で浸透され、その結果、地位においても性質においても聖別されました。このような聖別は、聖靈の中にあります——6:19. 15:16。
  3. 聖靈はキリストの贖いに基づいて、キリストの中へと信じることによって再生されている人たちを更新し、造り変え、分離して聖とします——3:24. 12:2. ヨハネ3:15。
- B. パウロは福音の祭司職の模範です。神の福音に関するローマ人への

手紙の中で、彼がわたしたちに告げているのは、どのようにして罪人が主を信じることによって救われ義とされることが出来るか、どのようにして彼らが聖別され造り変えられることによってキリストの中で前進するか、どのようにして彼らが自分自身を生きた犠牲として神にささげ、キリストのからだの肢体となって召会生活をし、団体的にキリストを表現して、彼の来臨を待ち望むかということです—— I テサロニケ 2:1-12. 使徒 20:17-36. ローマ 1:16-17. 3:24-26. 12:1, 4-5. 13:11。

C. 神によって定められた新約の奉仕は、すべての信者が祭司となって、神が願っているささげ物をもって神に仕えるということです—— 啓 1:5-6. 5:9-10. I ペテロ 2:5, 9 :

1. わたしたちは神の福音の祭司として、救われた罪人を拡大された団体のキリストの一部として、いけにえとして神にささげます—— ローマ 15:16。

2. 信者たちを神にささげることには三つの段階があります :

a. 福音を宣べ伝える人は新しく救われた人を、霊のいけにえとして神にささげます—— 16節. I ペテロ 2:5。

b. 新しい信者たちは成長して、キリストにある信者とは何であるかを理解し始めた後、励まされて、自分自身を生きた犠牲として神にささげます—— ローマ 12:1。

c. 信者たちが成長し続けて円熟へと至るとき、彼らの上で労苦する人は、キリストの中で完全に成長した彼らをささげます—— コロサイ 1:28。

3. 福音の祭司の体系の奉仕は、キリストのからだとしての召会の奉仕です。わたしたちの奉仕の中心は、罪人を救って神にささげることであり、わたしたちの奉仕の目標は、キリストのからだを建造することです—— 15:16. 12:4-5. I ペテロ 2:5, 9. エペソ 4:11-12, 16。

V. 「……わたしがわたしの霊の中で、御子の福音において仕えている神が、わたしの証人なのです……」—— ローマ 1:9 :

A. 新約で啓示された信者たちに関するすべての要求のために、特に神の福音を告げ知らせるために、わたしたちは手順を経た三一の神の分与を通して、からだの神聖な供給を受ける必要があります—— エペソ 3:2. ヘブル 4:16. ローマ 5:17, 21. ヨハネ 7:37-38. 使徒 6:4. ピリピ 1:5-6, 19-25。

B. わたしたちは、福音において神に仕えることが、神を礼拝すること

であることを見る必要があります。新約で、神に仕えることは、実は神を礼拝することと同じです——マタイ4:9-10. 雅1:2. 参照、詩2:11-12:

1. ローマ第1章9節の「仕えている」のギリシャ語は、「礼拝の中で仕える」を意味し、それはマタイ第4章10節、Ⅱテモテ第1章3節、ピリピ第3章3節、ルカ第2章37節でも使われています。パウロは彼の福音の宣べ伝えを、単に働きだけではなく、神に対する礼拝と奉仕と考えました。
  2. わたしたちは来て神に仕え、あるいは神を礼拝するとき、血できよめられた良心を必要とします。わたしたちの汚れた良心はきよめられる必要があります。それは、わたしたちが生きた方法で神に仕えることができるためです——ヘブル9:14. 10:22. Iヨハネ1:7, 9. 使徒24:16. 参照、Iテモテ4:7。
  3. 福音において神に仕えることは、すべてを含むキリストの中で神に仕えることです。なぜなら、福音はまさにキリストご自身であるからです——使徒5:42. ローマ1:3-4. 8:29。
  4. わたしたちは神の御子の福音を宣べ伝えるために、再生された霊の中にいなければなりません(1:9)。ローマ人への手紙でパウロが強調したのは、わたしたちであるすべて(2:29. 8:5-6, 9)、わたしたちが持っているものすべて(10, 16節)、神に対して行なうことすべてが(1:9. 7:6. 8:4, 13. 12:11)、わたしたちの霊の中になければならないということです。
- C. 「わたしたちこそ割礼の者であり、神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしていない」——ピリピ3:3. 参照、ローマ2:28-29:
1. 「肉」は、わたしたちの天然の存在の中でわたしたちであること、わたしたちが持っているものすべてを指しています。天然のものは何であれ、それが善くても悪くても、肉です。わたしたちは、キリストにある信者として、わたしたちは、生まれつき持っているどのようなものも信頼すべきではありません。なぜなら、わたしたちの生まれつきのものは何であれ、肉の一部であるからです。——ピリピ3:4-6。
  2. わたしたちは、主の光がわたしたちを照らして、わたしたちが自分の天然の特質、資格、能力、知力に信頼しないことを必要とします。このように照らされた後、わたしたちは霊の中で、また霊によって、真に神に仕え神を礼拝します。わたしたちは、主の御前にひ

れ伏して、神の目に、墮落した性質の中で行なわれることが何であ  
れ、邪悪で罪定めされるべきであることを見ます——7-8節。

D. 福音における主のためのわたしたちの働きと労苦は、わたしたちの  
天然の命と天然の能力によるのではなく、主の復活の命と力によりま  
す。復活は、わたしたちが神に仕えることにおける永遠の原則です——  
民17:8. I コリント15:10, 58. 16:10 :

1. わたしたちは、自分が無であり、何も持たず、何もできないこと  
を承認しなければなりません。わたしたちは自分自身を終わらせ、  
自分が全く無益であることを信じなければなりません——II コリン  
ト1:8-9. 出2:14-15. 3:14-15. ルカ22:32-33. I ペテロ5:5-6。
2. 復活したキリストは、命を与える霊として、わたしたちの中に生  
きて、わたしたちが自分自身の中で決してできないことを、行なわ  
せることができます——I コリント15:10. II コリント1:8-9, 12.  
4:7-18。
3. わたしたちは、自分の天然の命によって生きず、わたしたちの内  
側の神聖な命によって生きるとき、復活の中にいます。この結果は、  
神の福音の目標としてのキリストのからだの実際です——ピリピ3:  
10-11. エペソ1:22-23。